

第77回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：平成31年3月28日（木） 14:00-15:00

2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

葛西委員長、松井委員長代理、遠藤委員、折木委員、後藤委員、中須賀委員、山崎委員

(2) 政府側

内閣府宇宙開発戦略推進事務局 高田事務局長、行松審議官、須藤参事官、高倉参事官、森参事官、山口参事官

文部科学省研究開発局長 佐伯 浩治

4. 議事要旨

(1) 宇宙基本計画工程表改訂に向けた重点事項について、宇宙開発戦略推進事務局より説明を行った。委員からは以下の様な意見があった。(以下、○委員からの意見)

- 新たな防衛大綱を具体化していくプロセスをしっかりと進めていただきたい。防衛省におかれては、今後、宇宙安全保障関連の予算をどのように確保していくのか、見通しを示していただきたい。加えて、シュリーパー演習や SSA など、日米連携を引き続きしっかりと進めていただきたい。
- これまでのベンチャー育成施策は功を奏しているが、一方で、宇宙関連の大企業の産業化や、本格的な宇宙利用はまだ起きていないという認識。そういった観点から、次のような課題があると思う。
 - ・ 宇宙利用について、利用官庁が本腰をいれていないこと。
 - ・ 国の予算が効率的に活用されておらず、大企業の本気度が課題であること。
 - ・ 宇宙ベンチャーについては、成長はしてきたが、技術的な面で弱いところがあること。
 - ・ 特にリモセン分野において、国際連携の戦略が必要であること。
 - ・ 準天頂衛星システムについては、技術革新やコストの面で改善していくことが必要であること。
 - ・ 通信放送衛星 ETS-9 については、目標設定が課題であること。
 - ・ データ利用を進めていくためには、ユーザの要望とのミスマッチを解消し、Tellus をしっかりと進めていくことがカギであること。
 - ・ 予算的制約がある中、小型の衛星への投資や、民間資金の取り込み、安価にするための技術開発の推進などを進めることが必要であること。
- 基幹ロケットである H3 ロケットの開発を予算面も含めて、着実に進めていくことが重要。また、再使用型ロケットの開発も重要であり、どのように進めていくのか検討が必要。
- サブオービタルについて、米国では既に民間の取組が進んでいるが、日本でも複数社が計画を進めている。今後、安全ルールの整備や空港整備なども含め、法制面の議論が必要となってくる。

- 議論が細分化されていて、横串の議論が抜けている。全体を俯瞰した戦略的目標設定が必要ではないか。積み上げ方式の議論だけでなく、全体戦略から落とし込んでいくというアプローチも重要。
- (2) 国際宇宙探査の動向について、文部科学省より説明を行った。委員からは以下の様な意見があった。(以下、○委員からの意見)
- Gateway については、カナダはいち早くスタンスを決定し、EU も 11 月には方針を決定することになっている中、日本も早急に方針を決めていくことが必要。また、日本としてのビジョンを打ち出すことで、民間の参画をうながしていくも重要。
 - Gateway については、不確定要素が多い。現に米国から前触れもなく新しいことが出てくるような状況。Gateway 一本で考えていくのではなく、日本としてバックアッププランを常に考えておく必要がある。そういった意味では、Gateway とは別に、日印で探査プロジェクトを進めるというのはよい。

以上